

熊野学へのラブソング

H21年8月12日

南紀州新聞



松尾 智己

明治大学職員

1966年東京都生まれ。明治大学法学部卒業。総合法学部推進室等事務室勤務。現在、東京大学法学部推進室等事務室勤務。2009年2月まで22回、訪問したが、いつも故郷に帰

3年半、熊野へ22回

東京から電車で5時間。名古屋からは特急電車に乗り換え、三重県、和歌山県の太平洋沿岸を走る。車窓からの眺めは田園、山並み、砂浜へと移り変わって行く。かつて大勢の人々が熊野詣のために険しい山を越えてたどり着いた感激とは比較すべくもないが、少なからず感動を覚える。

私は初めて熊野を訪れたのは、明治大学の生涯教育機関リバティアカデミーが社会人を対象に主催した「なぜ人は旅に出るのか（コーディネート・林雅彦 法学部教授）」のフィールドワーク「世界遺産を巡り熊野の神秘を知る」に同行

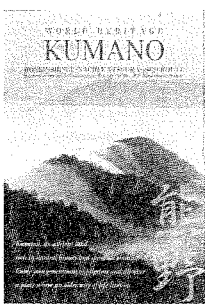
した2005年10月であった。「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産に登録された。熊野三山には、大型観光バスから降り立った多くの観光客でにぎわっていた。その後も、仕事の関係で2009年2月まで22回、訪問したが、いつも故郷に帰

ためであった。新宮市の協力のもと、新宮市等の熊野地域で、観光活性化に貢献できる人材の育成を目的に、20歳代から80歳代まで117名が参加された。プログラムは、熊野に関する講義や英会話をはじめ、新宮・田辺・那智勝浦・熊野を紹介した英語版観光パンフレット（写真）作成のためのグループワークなど約9ヶ月間にわたった。今年1月に2日間実施した模擬就労演習としての熊野古道ガイド体験では、自ら作成した地図を片手に説明する人、

事前にはガイドを実施するエリアを下見する人など受講者の熱心な姿に強い感銘を受けた。修了者のなかには外国人向けガイドの第一歩を踏み出している人がいると聞いている。また、この6月からは、新宮市主催で「英語観光ガイド育成事業」がスタートした。

世界遺産に登録されて5周年を迎えた今年、各地で記念事業が開催されている。明治大学では新宮市教育委員会と連携して第4回目となる「新宮市民大学講座」が9月5日（土）に新宮市で行われる。今回は、人文講座及び経済講座に加えて、納谷廣美学長・リバティアカデミー長の記念講演が予定されている。さらに、来年1月9日（土）には、東京御茶ノ水の駿河台キャンパスで新宮市との共催により「第3回熊野学フォーラム」が開催される。いずれも熊野の魅力を再発見する機会である。

聖地として訪れる人、観光で行く人、熊野を目指す目的は様々であるが、一度は訪れたいところ、それが古来、山・川・海と豊かな自然に恵まれた「熊野」である。



「熊野学へのラブソング」